

セーフティレポート 2016



株式会社舞浜リゾートライン



セーフティレポート2016 (2015年4月～2016年3月までの取組み)

目次

1. ディズニーリゾートラインをご利用の皆さまへ
2. 安全方針
3. 輸送の安全への取組み
4. 輸送の安全を推進する社内の体制
5. 鉄道運転事故の発生状況
6. ゲストの皆さまへ



1. ディズニーリゾートラインをご利用の皆さまへ

いつもディズニーリゾートラインをご利用いただき誠にありがとうございます。

ディズニーリゾートラインは、2001年7月に開業し、今年で開業15年を迎えることができました。この間、事故・重大なインシデントなく運行できたのは、当社において安全への取組を欠かすことなく実践してきたことはもちろんですが、ご利用の皆さまをはじめとした関係者の皆さまからの多大なるご支援とご協力があったの成果であると認識しております。

言うまでもなく鉄道事業者として輸送の安全を確保することは生命であり、東京ディズニーリゾートの一員としても安全を最優先することは経営の哲学です。2015年度は輸送安全マネジメントサイクルを確立するため、異常時対応訓練や内部監査を実施するとともに、特にリスクアセスメントの実施とマニュアル類の整備に注力をしました。2016年度末にはこれらを完了できるように継続して取り組んで参ります。

東京ディズニーシーも今年15周年を迎え、「Wish」をテーマに「東京ディズニーシー15周年”ザ・イヤーズ・オブ・ウィッシュ”」を開催しております。引き続きより多くの皆さまに安全で安心してご利用いただけるモノレールを提供し、皆さまの「Wish」が輝くよう取り組んで参りますので、引き続きご愛顧くださいますようお願い申し上げます。

この「セーフティレポート2016」は、鉄道事業法第19条の4にもとづく安全報告書として、2015年度における当社の安全に対する取り組みなどについてご紹介し、広くご理解いただくために作成、公表いたしました。

ぜひお読みいただき、皆さまの忌憚のないご意見、ご感想をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。



代表取締役社長
塚本浩一

2. 安全方針


「輸送の安全」に関する基本的な考え方として3項目の安全基本方針を制定しています。この安全基本方針は理解しやすさ、行動への結びつきを促すために2014年8月に変更しました。

【安全基本方針】

1. 私たちは法令を遵守し、安全を最優先する企業文化を築きます。
2. 私たちは安全を確保する能力を高め続けます。
3. 私たちは安全を確保する体制・設備・手順を維持向上させます。

また、具体的な行動に結びつくよう行動規範を定め、安全基本方針と共に全職場に掲出し、安全を最優先する安全意識の徹底を図るとともに、ゲストの皆さまへ安全・快適なサービスが提供できるよう、東京ディズニーリゾート全体とも連携を図っています。

【行動規範】

1. 法令や規則を理解しこれを遵守する。
 2. 幅広く収集したリスク情報に的確な処置を行い、事故の未然防止に努める。
 3. 複数の事項を対処する場合は、安全にかかわる事項を優先する。
 4. 発生している状況を具体的に把握し、迅速かつ正確に報告する。
 5. 異常・緊急時に判断に迷いがある場合は、最も安全と認める取扱いをする。
 6. 事故や災害が発生した際は、人命救助を最優先する。
 7. 安全をより高めるために必要な事項を改善し続ける。
- 

3. 輸送の安全への取り組み

3.1 安全目標

社長以下全キャストが一丸となり、安全管理体制の強化を行うとともに、2015年度は以下の目標を掲げました。

2015年度安全目標

「有責事故0件」「ヒューマンエラーによる輸送障害0件」

3.2 取組計画

- ① 輸送安全に関するリスクアセスメント実施促進
 - i 優先順位の確定、担当部門の設定
 - ii 対策計画
 - iii 対策実施

- ② 輸送安全に関するマニュアル・規定の見直し整備実施
 - i 定常業務・異常時対応の洗出し・マニュアル化確認
 - ii 規定化、マニュアルの見直し作業

この他、定例的な活動にも継続して取り組んだ結果、2015年度も鉄道運転事故・重大インシデント・輸送障害の発生はありませんでした。今後もソフト・ハードの両面から安全・安定輸送にまい進します。



3. 輸送の安全への取り組み

3.3 異常時対応訓練

当社は開業以来ドライバーレス運転を行っておりますが、万一の場合に備えて、事故・トラブルや自然災害などさまざまな状況を想定した異常時訓練を定期的に実施しています。

【2015年度訓練内容】

- 防火・防災訓練を各駅で実施しました。(2015年6月、2016年2月)
- 初期消火訓練を実施しました。(2015年6月)



- 列車が駅間に停止した後の対応訓練を実施しました。(2015年10月)



- タイヤがパンクした際の対応訓練を実施しました。(2015年12月)
- 地震発生後の対応訓練を本線で実施しました。(2016年2月)
- 停電発生時の対応訓練を実施しました。(2016年2月)
- AED取り扱い訓練を実施しました。(2016年3月)

この他、運行トラブル時におけるスムーズな運転正常化を図るための運輸指令キャストによる連動盤の手動操作訓練、テクニカルキャストの高所作業車・はしご車の設営および操作訓練など、年間計画にもとづいた定期的な訓練を行っています。

今後も実施評価を踏まえ計画的に実施していきます。

3. 輸送の安全への取り組み

3.4 安全のための投資

2015年度は、現場からヒヤリ・ハット報告があったリゾートゲートウェイ・ステーションの端部へ手摺柵を設置しました。



3.5 安全運行を支えるシステム

当社ではATOによるドライバーレス運転を行っています。これを支えるため、信号システムには保安度の高いATCを導入するとともに、各駅のホームには、列車との接触や転落防止のためのホームドアを設置しています。

なお、当社のドライバーレス運転は、一般の無人運転とは異なり、列車の最後部にガイドキャストが乗務しています。ガイドキャストは、ゲストの皆さまのご案内やドアの開閉、車内のモニター、さらには異常時におけるゲストの避難誘導等に柔軟に対応出来るように訓練されています。

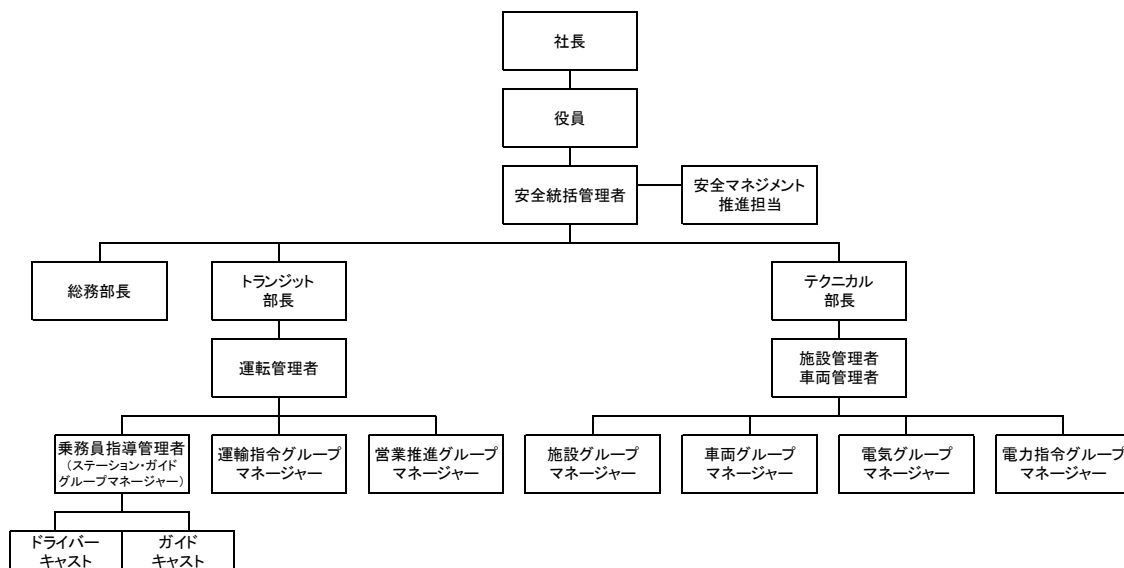
このほか、列車の運行を総合的に管理するTTCの設置や、機器の状態が把握できる車両モニター装置の搭載等により安全確保に努めています。

- ① ATC（自動列車制御装置—Automatic Train Control）
前を走る列車との間隔やカーブなどの線路状態にもとづいた情報を、速度信号として地上側の装置から列車に設けた装置に送り、実際の速度と制限速度とを比較したうえで、超えている場合には自動的にブレーキを作動させ、制限速度以下まで減速させるか停止させるシステムです。
- ② ATO（自動列車運転装置—Automatic Train Operation）
ATCのバックアップのもと、列車の出発、走行、減速、定位置停止の列車操縦制御や、ホームドアとの連動制御などを自動的に行うシステムです。

4. 輸送の安全を推進する社内の体制

4.1 安全管理体制

当社の「安全管理規程」では、輸送の安全確保のために社長をトップとする安全管理体制を構築し、各責任者の責務を明確にしています。



管理者	責務
社長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う。
安全統括管理者	輸送の安全の確保に関する業務を統括管理する。
運転管理者	安全統括管理者およびトランジット部長の指揮の下、列車の運行、乗務員の資質の保持その他運転に関する業務を管理する。
乗務員指導管理者	運転管理者の指揮の下、乗務員の資質の保持に関する事項を管理する。
施設管理者	安全統括管理者およびテクニカル部長の指揮の下、施設に関する事項を統括する。
車両管理者	安全統括管理者およびテクニカル部長の指揮の下、車両に関する事項を統括する。

4. 輸送の安全を推進する社内の体制

4.2 安全管理の方法

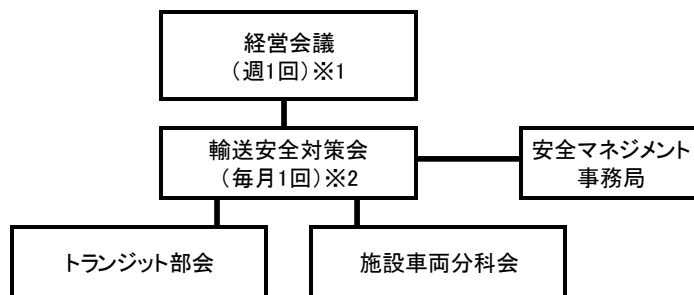
輸送の安全を確保するため、安全に対する検討および研究を継続し、さらに内部監査も実施することにより、PDCAサイクル（輸送の安全に関する方針などの策定、実行、チェック、改善のサイクル）を確実に機能させ、社長以下全キャストが一丸となった安全管理体制の確立に努めています。

輸送の安全に関する会議

年間計画に基づき、毎月1回開催される「輸送安全対策会」では、自社や他社で発生した事故・トラブル等の報告、再発防止策の検討、中期的な視野のもと輸送安全に関わる事案の研究を行っています。また、定期的にも実施する異常時総合訓練の計画案作成、実施後の検証も行っています。

この会議で話し合われた内容は、実施の都度、社長をはじめとする役員へ報告されます。

【輸送の安全に関する会議】



※1 全常勤役員出席

※2 緊急性のある場合は都度開催

4.3 安全管理体制の見直し（内部監査）

安全管理体制がPDCAサイクルにもとづき、適切に運営されているかをチェックするための内部監査（運輸安全マネジメントに係る内部監査）を年1回実施しています。

2015年度は各職場において作業手順の遵守状況についてのヒアリング・モニターを監査するとともに経営層や安全統括管理者に対してインタビューを実施しました。今後もこの監査結果をもとにして継続的な業務の見直しを行うとともに、安全管理体制の維持向上を図っていきます。

5. 鉄道運転事故の発生状況

2015年度の事故の発生状況は以下のとおりとなります。

① 鉄道運転事故

鉄道運転事故はありませんでした。
引き続き、安全運行に努めていきます。

※鉄道運転事故とは、国土交通省の鉄道事故等報告規則（省令）にもとづく、列車衝突事故、列車脱線事故、列車火災事故、踏切障害事故、道路障害事故、鉄道人身障害事故、鉄道物損事故をいいます。

② 輸送障害

輸送障害はありませんでした。

※輸送障害とは、省令にもとづく、国土交通省への報告対象となった列車の運休または30分以上の遅れをいいます。

③ インシデント（事故の兆候）

インシデントはありませんでした。

※インシデントとは、省令にもとづく、事故には至ってないが運転事故が発生するおそれがあると認められる事態のことをいいます。

今後も、ゲストの皆さまに安心してご利用いただけるよう、全役職員が一丸となって安全運行に努めていきます。

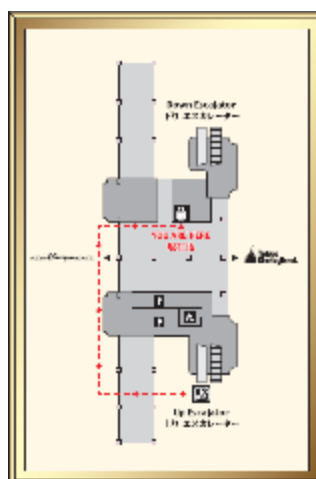


6. ゲストの皆さまへ

6.1 皆さまの声をかたちに

ゲストの皆さまに安心してご利用いただくために、皆さまからお寄せいただいたご意見をさまざまな対策に反映させています。

- ① 駅のエレベーター乗り場には、車いすをご利用のゲストをはじめ、エレベーターを必要とされるゲストの方への優先利用にご協力いただけるよう、案内表示の設置を行っています。



- ② 車いすやベビーカーをご利用の方にもよりスムーズにモノレール車内へご乗車いただけるよう、固定式スロープを全乗車口に設置しています。

なお、高齢のゲストや体の不自由なゲストのご案内に必要な知識、技能を習得するため、サービス介助士2級の資格取得を積極的に進めています。



6. ゲストの皆さまへ

- ③ 全4駅にAED（自動体外式除細動器）を導入しています。
また、これにあわせて、AEDを取り扱うキャストを養成するため普通救命講習普及員の認定を受けています。



6.2 ディズニーリゾートラインから皆さまにお願い

- ① ディズニーリゾートラインは3分～13分間隔で運転を行っております。発車ベルが鳴ってからのかけ込み乗車は思わぬケガのもととなります。次の列車をお待ちください。
- ② ホームドアに寄りかかったり、顔や手をホームドアの外に出さないでください。
- ③ ホームと列車との間には、すき間があります。乗り降りの際は十分ご注意ください。特に小さなお子さまをお連れの方は、手をつないで乗降をお願いします。
- ④ 緊急時、ただちに列車を止めなければならないときは、各駅のホームドア中央付近に設置してある「非常用ボタン」を押してください。
- ⑤ 運転中やむを得ず急ブレーキがかかる場合があります。皆さまの安全のため、ご乗車の際は座席にお座りになるか、お立ちの場合はお近くのつり革や手すりにおつかまりください。



6. ゲストの皆さまへ

- ⑥ ドアに手をつけていると、ドアが開いた際に戸袋に手が引き込まれてしまうおそれがあります。ドア付近にお立ちの時はご注意ください。特に小さなお子さまをお連れの方は十分ご注意ください。
- ⑦ 各車両には、非常時の際にガイドキャストと通話のできる「非常通報装置」が設置されています。万一車内において急病人の発生や、不安全な行為等を認めたときは、何なりとお知らせください。



- ⑧ ディズニーリゾートラインへの危険物等の持ち込みは固くお断り致します。
- ⑨ 盲導犬、聴導犬、介助犬以外のペットをお連れの方は必ずペットケージをご用意ください。

6.3 お問い合わせ

セーフティレポートへのご意見やご感想、安全の取組みに関するご意見をお寄せ下さい。

株式会社舞浜リゾートライン
TEL : 047-305-2409 (平日9:00~17:00)